

開講日	2022年春期 水曜日 18:30-20:00	講義場所	Web (Zoom)配信 + 録画配信 (対面講義は行いません)
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野 教授 杉浦健之		

科目概要 および 期待される 成果	<p>【概要】“慢性痛”とは痛みが3ヶ月以上続いている状態です。検査でとらえられない程度の器質的要因がきっかけになっただけでも、痛みが遷延化する過程で、心理社会的要因が複雑に絡むこともあります。一億総活躍社会を掲げ、誰もが、家庭で、職場で、地域で、充実した生活を送るためには、患者の痛みは放置されるべきではありません。痛み診療の重要性が医療者の間、社会全体にも浸透する中で、痛み診療の在り方も少しずつ変化しつつあります。名古屋市立大学病院では、2017年に「いたみセンター」を開設し、集学的治療を行っています。今年度も、当院および近隣の学際的痛みセンター等から、多職種の講師陣を揃え、専門領域の最新情報や、現場の生の声をお届けいたします。皆様のご参加をお待ちしております。</p> <p>【期待される成果】医師、看護師、理学療法士、臨床心理士、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士など多職種の方々に、痛み診療に関わるハイレベルな知識と技術を身につけていただき、「多職種チーム医療」に貢献できる人材育成を目指しています。痛みにお困りの方に寄り添い、適切な治療やアドバイスを提供することが出来る仲間を増やしていきたいと考えております。</p>
目標とする 資格	いたみマネージャー、いたみコーディネーター

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	痛みの治療における多職種チーム医療	痛み診療は日々進歩しています。治療に難渋する慢性痛は、生物・心理・社会モデルで捉え、多職種による介入が必要な病態と考えられます。最新の知識から痛みの病態を体系的に理解していただき、いたみセンターでは実際にどのようなチーム医療が行われているか、ご紹介させていただきます。	4月6日	教授 杉浦健之 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学・名古屋市立大学病院 いたみセンター
L-2	2	周術期ケアセンターにおけるチームでの術後痛管理	名古屋市立大学病院の周術期ケアセンターは、『多職種チームにより、総合的に質の高い周術期ケアを提供すること』を目的として開設されました。本講義では、周術期(術前・術中・術後・社会復帰)の様々な場面における術後痛に対する考え方とチームでの取り組みについて解説します。	4月13日	講師 周術期ケアセンター副センター長 仙頭佳起 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学
L-3	3	股関節の構造と痛みの出現するメカニズムと治療	股関節の痛みは様々な病気や怪我で起こります。本講義では、①股関節の構造 ②痛みの出現するメカニズム ③リハビリテーション ④最新の手術などについてお話しします。	4月20日	講師 黒柳元 名古屋市立大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学
L-4	4	運動による疼痛緩和と予防	痛みは、皮膚、粘膜、骨膜や内臓の自由神経終末が刺激されて起こる。痛みの情報は、脊髄の後根から入って、脊髄を上行し、延髄、視床を経て大脳皮質に至り、そこで痛みとして自覚される。本講義では、痛みの生理学的概要に加え、痛みの軽減、予防を目的とした運動の効果について、臨床及び基礎研究を交えて解説する。	4月27日	准教授 田尻直輝 名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経生理学
L-5	5	慢性疼痛における運動療法の考え方と実践	慢性疼痛において、近年、運動療法と教育を組み合わせたアプローチにより、運動療法単独と比較して、疼痛、身体機能、生活障害などの改善を得られやすいことが報告されている。本講義では、このような併用アプローチの考え方の基本とその実践について概説する。	5月11日	理学療法士 井上雅之 愛知医科大学 運動療育センター・学際的痛みセンター
L-6	6	痛みに対するニューロリハビリテーション	慢性疼痛は痛み刺激の持続的入力により脳内の痛み受容に関連する神経回路の変容が生じていると考えられている。本講義では、神経回路の変容を最新のニューロモジュレーションにより回復させる可能性に関して概説する。	5月18日	教授 植木美乃 名古屋市立大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学
L-7	7	痛みのインターベンショナル治療	神経ブロックをはじめとするインターベンショナル治療は、ペインクリニックにおける代表的な治療法である。しかし心理社会的要因などが複雑に絡んだ慢性痛患者では無効であることも多い。ここでは慢性痛患者でインターベンショナル治療を実施する際の注意点および代表的な治療法について概説する。	5月25日	准教授 草間宣好 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 麻酔科
L-8	8	舌の診方(舌診)と「舌痛症」の治療について	古来「舌は全身の鏡・健康のパロメーター」と言われており、「舌診」は漢方医学の重要な診断法の一つです。「舌痛症」の治療には「舌診」が欠かせません。舌の診方について解説します。	6月1日	名誉教授 横井基夫 名古屋市立大学大学院医学研究科 口腔外科学分野
L-9	9	脳とこころから痛みを評価する	痛みは主観的なもので目に見えません。患者さんを理解するためにどのような工夫をすればいいのでしょうか。この講義では痛みに関係する生理学的な検査などについて説明します。	6月8日	教授 西原真理 愛知医科大学 学際的痛みセンター
L-10	10	精神疾患・発達障害と慢性痛	情動や認知、行動は痛みが大きく影響を与えるため、慢性痛に併存する精神疾患へのアプローチは重要です。本講義では、精神疾患・発達障害と慢性痛の関連、および治療について概説します。	6月15日	助教 副センター長 近藤真前 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学・名古屋市立大学病院いたみセンター
L-11	11	慢性疼痛患者の生活の再構築を支える看護	慢性疼痛とは何かについて、健康とは何か、看護とは何か、といった看護の原点やその専門性を浮き彫りにしながら理解を深めていきます。	6月22日	准教授 小田嶋裕輝 名古屋市立大学大学院看護学研究科 慢性看護学
L-12	12	慢性痛の多職種チームにおける看護師の役割	本講義では、慢性痛の多職種による診療システムについて紹介します。その中で、チームの一員として、看護師に求められる役割と、日頃大切にしている臨床で実践していることを、架空症例を通してお話しします。	6月29日	看護師 いたみマネージャー 山本恵美子 名古屋市立大学病院看護部・特任助教 臨床心理士 いたみマネージャー 酒井美枝 名古屋市立大学病院 いたみセンター
L-13	13	コミュニケーションスキルと慢性疼痛患者に対する心理的アプローチ	慢性(疼痛)疾患患者はその多くが心にも苦しみを抱えています。本講義ではコミュニケーションをとおして患者との良好な関係性を築くためのポイントや患者の苦悩や心理的問題に対するアプローチについて概説します。	7月6日	教授 牧田 潔 愛知学院大学 心理学部 心理学科
L-14	14	慢性疼痛と行動科学 —その基礎と応用—	複雑な要因が絡み合う慢性痛は、医学モデルのみに基づく対応や理解には限界があります。本講義では、疼痛科学の分野で取り入れられてきた「行動科学モデル」の基礎理論から応用を概観し、行動科学から見た慢性痛患者の行動やQOLの促進について解説します。	7月13日	特任助教 臨床心理士 いたみマネージャー 酒井美枝 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野・名古屋市立大学病院 いたみセンター
L-15	15	がんの痛みからひととく、痛みのしくみとその対応	がんの痛みには、痛みに関連する全ての要素が含まれています。がんの痛みを学んで、痛みについて総合的な理解を深めましょう。	7月20日	部長 春原啓一 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 疼痛緩和と支持治療科